

四旬節第3主日

第一朗読：出エジプト 3・1-8a、13-15

第二朗読：一コリント 10・1-6、10-12

福音朗読：ルカ 13・1-9

2025.3.23 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

イエズス会 アン助祭

共同体の皆さん、今日は四旬節の第3主日です。

皆さんがご存じのように、四旬節において教会がよく強調することの一つは「回心」です。「回心して福音を信じなさい」という言葉を皆さんはよく聞いているでしょう。しかし、「回心」とはどういうことですか。

主の復活を相応しく迎えるために、確かにわたしたちは心を準備して回心する必要がありますが、回心は単なるわたしたちが自分の意志で一方向的に行う行為ではありません。何よりも先立って、神がすでにわたしたちの内に働きかけ、回心の心を与えてくださるから、わたしたちのうちに回心の実現するのです。

預言者エゼキエルはこの経験について次のように証ししています。「わたし（神）はお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える」（エゼキエル 36・26）。

このように、キリスト教における「回心」は、基本的に神の恵みであり、神のいつくしみから出てくることなのです。神は常にわたしたちをいつくしみ、多くの恵みを与え、またわたしたちを導いてくださいます。ですから、この神の偉大ないつくしみに応えるために、わたしたちは回心し神に立ち帰ることを望んでいるのです。

今日の説教では、この回心の意味をもとに、今日の典礼の言葉が示している「神の限りないいつくしみ」を一緒に黙想したいと思います。それによって、わたしたちは本当に回心の経験に触れることができると思います。神の限りないいつくしみは、わたしたちの回心の出発点だからです。

第一朗読では、神がイスラエルの民をエジプトの奴隷生活から解放するためにモーセを召し出したことについて語っています。神は燃える柴の中からモーセを呼び、彼を、苦しむイスラエルの民のもとに遣わしました。しかしそれだけでなく、神は、自分がどれほどイスラエルの民を愛しているかをモーセに示します。これは、今日の典礼の言葉が強調したい重要な点であると思います。神はモーセに「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使

う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」(出エジプト 3・7)と言います。また、神はモーセに「わたしはある」(出エジプト 3・14)という自分の名前を教えます。神の名前についてはさまざまな解釈があるにもかかわらず、わたしたちにとってこの教えから学べる重要なことは、「神が常にわたしたちと共にあり、何があってもわたしたちと共に歩んでくださる」ということです。

今日のルカ福音書では、イエスは、ガリラヤとエルサレムの一部の人々の悲しい出来事から始めて、ある人に起こる不幸な出来事を根拠に、その人を罪深い者、悔い改めをしない人として判断することはできないと示しています。

イエスはいちじくの木のとえを通して、回心について、そして、人間に対する神の限りないいつくしみについて教えます。いちじくの木のとえによれば、主人がぶどう園の真ん中に一本のいちじくの木を植えました。なぜ主人はぶどう園の真ん中にいちじくの木を植えたのでしょうか。このイメージを黙想するとき、いちじくの木はおそらく主人の心の中で特別な位置、場所を占めているのではないかと思います。主人は、このいちじくの木が多くの実を結ぶことに大きな期待を持っているのでしょ

しかし残念ながら、このいちじくの木はまったく実を結びません。これにより、主人は失望するようになりました。1年ではなく、3年間も待ったのに、一つの実を結ばなかったのです。そこで、主人は「切り倒せ」と決断します。この決断はまったく不合理ではないと思います。いちじくの木には、これ以上望んだり待ったりするものは何もないからです。

「御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません」(ルカ 13・8-9)。これは、長年いちじくの木を世話している園丁の願いです。彼は主人に、いちじくの木に最後のチャンスを与えるよう頼みます。ルカは主人がこの頼みにどう反応したかは記していませんが、おそらくもう一年待つことに同意したのでしょ

いちじくの木が最終的にどうなるのか、実を結ぶのか、それとも伐採されるのか、イエスは答えません。答えはわたしたち次第だからです。わたしたちはあのいちじくの木なのです。常に植えられ、愛され、期待され、待たれています。神はわたしたちの人生に多くの恵みを与えてくださっています。また、神はいつくしみの源であり、常に忍耐強くわたしたちに機会を与えてくださいます。後はわたしたち次第です。

共同体の皆さん、今日の典礼の言葉を通して、わたしたちに対する神の限りないいつくしみを黙想することができると思います。神の限りないいつくしみは、

わたしたちの回心の出発点です。どうか、神のいつくしみに触れることによって、わたしたちが日々の生活の中で回心の経験を深め、多くの実を結ぶことができるよう、祈りましょう。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>